

ばんうまん

1991年11月 No. 126

（本稿）元
森田尚美
（編集）高橋みづえ



午後2時から、長崎市
の市立図書館全体のセ
レモニー「図書センター」
開設式を行はれた。

「女アート3年」と實り下
さった方から成だり下
私達の利益企て、女ア
男氣付かれ、アーテ
手にし、明かなく明日入
向かひ歩きて行動力も

大換るための本に代わる3年ごと贈りづけのものです。本は利用する人に一番便利
な所にある。中央公民館図書室にあられ、「ばんうまん文庫」と大書され、本棚に收
めて貯りつぶれています。今年が3回目で千冊となりました。

おもしろい本はありません。おもしろい本ばかりです。何よりも借り手が多くて、図書室
の中でも回転率がとても良いのです。「女アート3年」の使用者の皆様、ありがとうございます。
せせと口に来て下さいネ。





この3年(6) (たま全国版
私にとって生涯忘れ難い事。
すばらしい出来事。
東京の年でした。
まわりはすべて
おかげ様と…
気持ちいいは…です。

ほてん・うーさんの会様。
3年間「女のトドキ」を貰わせて、ありがとうございます。
おもほく、よく見やく、身に入りやすいので、今回もよろしく
お願いします。私は長男9才、長女7才、次男4才の3人。
娶まれて、一日もあらへずお手離しません。
あれは、この三世代ばかりで、「五年の令嬢は子孫の様子、孫の様子」
こういふ人に聞かれて、とか、表、意味で返答したのが出来ます。
私の返答は、この手書きは「女のトドキ」と知り、いくつともないと思。
私の命と返答の分 ￥3000-を送ります。
返答の住所は下記の通りです。よろしくお願いします。

新しい家庭科

10

1991年12月号に
記事が出了した



津田尚美エムの文部省

一九八九年の春、長崎は旅博覧会開催のため「ミス・旅博」を募集した。公共の機関が審査員の主観的な美の型を基準にして、順位をつけ、賞を出す、というのだ。例年「ミス長崎」は観光地にはかかせない、華となる、という。

何故若い女だけが華なのか、何故未婚でなければならないのか、生まれもった容姿の美しさを競わせる、これこそまさに男の価値感で決められた、男社会の慣行にすぎない。

観光地としての長崎の宣伝のため、客をもてなすための存在に必要なら、その役割は、長崎の歴史を知り、美しさを認め、誇り、未来を語れてこそであり、外国語でも案内でき、つまり案内好き、宣伝上手こそ競うべきであろう。それは若い女性にのみでき得ることでなく、男性もまた躍動的で明るく、華やかにでき得ることである。

「ミスコンテスト」の中にみる、女性蔑視^{べし}とは、二十歳でもミセスは駄目、三十歳はもう、性の経験があつただろうから駄目だ、という処女崇拜の根からみられる年齢制限である。

もう七、八年前のことであるが、コンテスト最終段階で、何人かのミス達を並べ、審査員の一人が耳をみせるように言い彼女等が横をむいて髪をかきあげてみせた、という。彼女等は下世話に耳の型で女のセックスがどうのこうのという話は知らず、男同士では、知るのは知つても口に出さず問題にならなかつただけにすぎない。

「ミス」の下地に何があるか規定に同封の用紙を用意させて、社交界の女性をのぞき、控室でたばこを吸っていたことで格下げ、とは人間の人格を無視した、人権問題である。「ベスト」「ヒップ」のサイズを規定に入れて、競わされた行事でも、何年もくり返し行なわれてゆくうちに、「女ですら『何故これが女性蔑視なのか』といい『女が美を競つて何故いけないのか』と疑問もいだかず『例年の催し』となっていた。

発言 ばってん・うーまんの会

津田尚美

前略。三日目がなくて参りました。

今回ほ。新しい人生の発見を仰る友人にプレゼン
して。2月の原稿…お読みにしました。

大林自身の私にとりましてとても印象的でした。響き

ありました。どうぞよろしくお願ひ致します。

『職場環境の中にかいしま見る不平等』(連載⑧)

『会議』

秋になると官公庁の経理担当は翌年度の予算編成にかかり。予算編成にあたって会議の招集があった。私は全く関係がないわけではないから、声がかかるままだけど、積極的に会議に割り込んで行ってみたところ、事務職の男性はほとんど来ていたのをうかがう。

いつも思うが、女性は色々な会議には全く参加出来ないからである。女性は会議からしほ出されて、お蔵出しと、後付けぐらしさでせられたり。それが何事か仕事、責任ある仕事をつけるない証拠だ。女性は男性より手足と見て削除されるだけである。

会議に出て、自分の意見をのべるチャンスがないので、仕事や能力の評価にもつながる。『会議ばかりあって疲れ』「忙がしい」という男性に対して、ねたましくて、忙がしいと思はせられる。役所は実に男社会であるが、行政や住民サービスに女性の視点が全く反映されないのは市民生活の何事とはまちまち。

今後ますます高齢化社会を迎えるとしているので、女性の地位向上をもっと多くと声を大にして叫びたい。

「女性行政推進室」には果たある仕事をこなすものである。

